



JR花輪線「陸中大里駅」から盛岡方向に二つ目が「湯瀬温泉駅」



八幡平橋から湯瀬渓谷を眺める。頭上を東北自動車道が駆け抜けていく



尾去次鉱山が全盛のころは、湯瀬温泉のにぎわいも今の比ではなかったという。その余韻が、今も温泉街のそこかしこに感じられる。

# みちのく

# ココロとカラダの癒し旅

## 二つの文化の交差点

鉄道の駅名には、頭に旧国名がつくものがある。秋田でいえば「羽後○○」といった具合だ。旧国名がつくことで、おおよそどのあたりにある駅なのかを想像つく。「羽前○○」なら山形だし、「陸奥○○」なら青森、「陸中○○」なら岩手、というように。

ところが、秋田県内に一カ所だけ、「陸中」とつく駅名がある。JR花輪線の陸中大里駅だ。となりの鹿角花輪駅も平成七年までは陸中花輪駅と名乗っていた。秋田県内なのに「陸中」とは奇異な印象を受けるが、それこそが、かつてこの地域が南部領であったという証左にはかならない。

この周辺は鉱山資源、木材資源の宝庫であったため、秋田藩と南部藩で長い間にわたって領界争いが続いた。廃藩置県によって鹿角地方は秋田県に組み込まれることになったが、岩手の郷土料理である「けいらん」がこの地にも伝わっていたり、「南部せんべい」の店があったりと、今でも南部の文化が色濃く残る土地柄なのである。

秋田県鹿角市湯瀬温泉 姫の湯ホテル





ロビーでは囲炉裏で沸かしたお湯でお茶をどうぞ



お客が自由に一句したためられる俳句コーナー。  
他のお客の旅模様を垣間見ることができる



大浴場に続く長い廊下には、写真やイラストが展示されていて、さながらギャラリーのよう

一説によると、江戸中期、花輪地方の巡視に訪れた南部の殿様に差し上げる食事としてあみ出されたものが、今日の秋田名物きりたんぼになったともいわれているようだ。

### 創業者の開拓者精神

鹿角地方と盛岡方面を結ぶ国道282号は、かつては鹿角街道と呼ばれ、尾去沢鉱山と南部城下を結ぶ重要な街道であった。現在の湯瀬温泉は、その街道の宿駅の一つとして歴史に登場してくる。昔から交通の要衝であったのだ。

湯瀬温泉のあるあたりは、米代川の源流域に近い山間のあい路だが、国道の他、J R花輪線、東北自動車道を通り、今日でも北東北の交通の大動脈であることに変わりはない。そのためもあつて、東北の観光地巡りや祭り見物の宿泊拠点として湯瀬温泉は旅行者に重用されている。

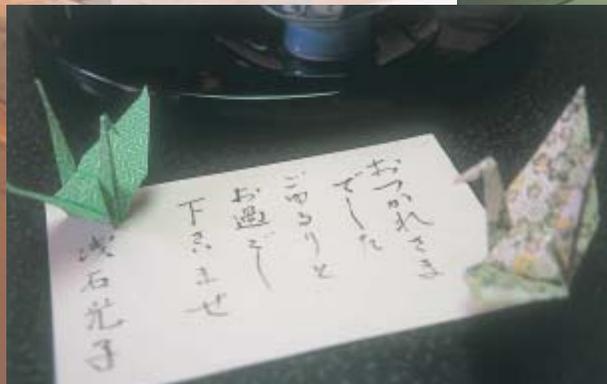
姫の湯ホテルの創業者は進取の気性に富んだ人物であつたらしい。尾去沢鉱山で働いたのち、みずから電気会社を興して農村の電化に取り組み、昭和三年に湯瀬温泉の湯治宿から源泉と家屋敷を購入して温泉宿経営に乗り出し、さらには、八幡平の雄大な自然に魅了され、八幡平山頂の藤七温泉彩雲荘も開業させた(今でも彩雲荘は姫の湯ホテルと一体経営)。



客室ではルーム係の自筆のメッセージと折り鶴が迎えてくれる



客室の鏡の前に、裁縫セットが置いてあつた



鮎の化粧焼き。塩でヒレの形がきれいに整えられている。料理人のこだわりが感じられる



別注文の比内地鶏の柳川。ぜひ食したい一品



料理の面にも注目したい。湯瀬温泉は地図で見る限りは海から離れた山間地にあるが、実は鹿角市内にはかなり大規模な市場があつて、山海の旬の新鮮な食材がふんだんにそろふ。姫の湯ホテルでは調理長がみずから市場に足を運び、当日仕入れの食材を中心ににした旬の味が食卓を彩る。比内地鶏や山菜など、地場の味もふんだんに堪能できる。

遠来の旅行者には、秋田らしさをアピールした献立になるが、逆に県内のお客には、たとえば「きりたんぼ鍋」の代わりに「寄せ鍋」を用意するなど柔軟に対応している。また、予約の際に申し出れば肉料理の苦手な人には魚料理を、あるいはその逆をと、希望を聞いてもらえることもありがたい。団体客以外は部屋食となるので落ち着いて食事を楽しめる。取材時は味わ

### 山峡の宿で美食を愛でる

また、創業者の遺志を引き継いだ二代目は、年輩のスキー愛好者には懐かしい旧「竜ヶ森スキー場」も開業させている。

こういった気風は、三代目社長の現在の姫の湯ホテルにも受け継がれ、温泉宿として宿泊客に何ができるのかという課題に真剣に取り組んでいる様子も、そこそこ垣間見ることができると。たとえば各客室にさりげなく置かれた裁縫セット。すべてのお客が使うとは限らないが、あれば助かるというお客も少なくはないだろう。客室数100室以上の大型ホテルとしては細やかな心配りだと思ふ。



開放感にあふれた庭園風の露天風呂



日が暮れると、山あいの宿らしい静寂があたりを包む



大浴場は男女とも同じ大きさのものが一対ある。湯は無色透明の弱アルカリ硫黄泉。湯上がりの肌がサラサラとする通称“美人の湯”





朝食はバイキング。手づくりの“おかず”をお好みて



鱈、比内地鶏のささ身、キンメダイのタタキ



焼きホヤ



和牛のステーキ



季節の天ぷら。ホタテ、ウド、マイタケ、タケノコ、ツクシ、フキトウと、早春ならではの愉悅だった



左から、ギバサ、ボンナ、シドケ

館内の床面は段差をなくし、車いすの用意もあるので、お年寄りや介添えの必要な人の利用にも重宝。立ち居がたいへんな方には和洋室を勧めている。たまには奥さん孝行でもしたいと考えているご主人、両親の金婚式銀婚式に小旅行をプレゼントしたい...といった利用にもおあつらえ向き。宿は花輪線湯瀬温泉駅と徒歩数分の距離なので列車の旅も便利だ。

車での旅行であれば、メインランド尾去沢や八幡平、十和田湖、小坂町の康楽館など、周辺には足を伸ばしてみたところがたくさんある。

意外な穴場スポットなのが、湯瀬温泉と花輪線八幡平駅のあいだの湯瀬渓谷散策コース。約6km、徒歩で二時間あまりの渓谷沿いの遊歩道は、つり橋あり、滝あり、音を立てて流れる奔流ありと、実に変化に富んだ大自然の景観を堪能させてくれる。スニーカーをはいて、ひと駅間のハイキングを楽しんでみたいものだ。

(文 写真川かとりゆーすー秋田市)

車でも列車でも楽しめる旅

えなかったが、館内のそばコーナーの南部手打ちそばもなかなかの逸品らしい。そば通ならぜひ食してみたところ。遠くに旅行するほどでなくとも、何かちよつとおいしいものを食べたくなた時に、覚えておきたい宿でもあるのだ。

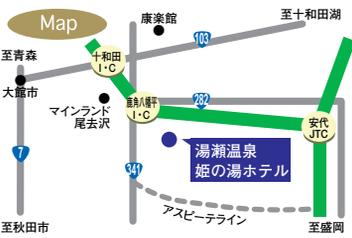
HIMENOYUHOTEL

- 施設のご案内**
- 収容人員606名様
  - 客室数114室
  - 殿方大浴場「吉祥の湯」  
殿方露天風呂
  - ご婦人大浴場「吉祥の湯」  
ご婦人露天風呂
  - コンベンションホール
  - 大宴会場2室(216畳・108畳)
  - 中宴会場3室 ●料亭(6室)
  - ロビーラウンジ
  - コーヒーラウンジ ●クラブ
  - 南部めん処 ●パーティールーム
  - 売店 ●駐車場完備
  - 第一級防災設備完備
- お一人様1泊2食付  
12,000円程度より(税別)
- 団体様 お一人1泊2食付  
10,000円程度より(税別)
- ※お料理内容は予約時にご確認ください(取材時は、追加料理を含め15,000円の予算です)



大館市曲田の北鹿ハリストス正教会聖堂。秋田杉で建てられた愛くるしい歴史的建築物。湯瀬温泉の行き帰りに立ち寄ってみたい

湯瀬温泉とも深いつながりのあった尾去沢鉱山跡。現在は「メインランド尾去沢」という観光スポットとして旅行者や行楽客に人気がある



日本のふるさと  
秋田県/湯瀬温泉  
大館市曲田  
娘の湯ホテル

〒018-5141  
秋田県鹿角市八幡平湯瀬温泉  
TEL.0186-33-2011 Fax.0186-33-2027  
ホームページアドレス  
<http://www.himenoyu.com>  
Eメールアドレス [furusato@himenoyu.com](mailto:furusato@himenoyu.com)



湯瀬渓谷のハイライト獅子淵。湯瀬温泉駅から隣の八幡平駅までのあいだ、湯瀬渓谷に沿って続く6kmの散策コースは、徒歩で約2時間15分。新緑や紅葉のころに歩いてみたいトレッキングコースだ

